

第23回 大書心会ペン字展出品要項

主催 書道教育 大書心会
後援 岐阜県 土岐市 多治見市
岐阜県教育委員会 土岐市教育委員会 中日新聞社
(財)岐阜県教育文化財団

◇財団法人岐阜県教育文化財団助成事業

一、会 期 平成二十年十月十日(金)～十三日(月・祝)

午前九時～午後五時まで 入場無料

(十日は午後一時から 十三日は午後四時まで)

一、会 場 セラトピア土岐 ☎0572(54)2120

〒509-5121 土岐市土岐津町高山4番地

一、出品資格 高校生以上

一、出品区分 一科審査会員

二科審査会員(師範)

無鑑査(教範)

一 科 (書範～準四段)

二 科 (三段～準初段)

三 科 (1級～新人)

特別出品 (前記を除く支局長・支部長。無審査とする)

○出品区分については、大書心誌九月号現在の規定・かなの段級のうち、上位の方を基準にして決定する。

○本会の硬筆部に出品していない場合は、所属団体での資格を明記の上、相当する区分に出品のこと。

一、用 具 つけペン・万年筆・ボールペン・フェルトペン・竹ペンその他硬筆と認められるもの(筆ペンは除く)

一、作品寸法 一科審査会員・二科審査会員・特別出品・無鑑査

一〇〇cm×一〇〇cm以内

一科・二科・三科

六〇cm×七〇cm以内(縦横自由)

※いずれのサイズも作品の表装仕上がり(額)の寸法です。
※規定寸法を超えた作品は審査できません。ご注意ください。

創作、臨書、実用書等自由

一、作品内容 一科審査会員…五、〇〇〇円

二科審査会員…四、〇〇〇円 一 科…三、〇〇〇円

特別出品…四、〇〇〇円 二 科…二、五〇〇円

無鑑査…三、五〇〇円 三 科…二、五〇〇円

一、出品申込

出品申込書に必要事項を記入の上、九月十八日(木)までに出品料を添えて本部事務局に申込むこと。

※出品申込書は、予め各支局・支部に送付する。個人会員は本部事務局まで請求のこと。

一、搬 入

(A) 展覧会場へ直接搬入する場合(表装済作品)

平成二十年十月九日(木) 午前九時半～十時半

※可能な方は、直接搬入(時間厳守)にご協力下さい。

(B) 本部へ送付(持込み)する場合(表装済作品)

平成二十年十月三日(金) 必着

(C) 本部へ表装を依頼する場合

平成二十年九月十八日(木) までに表装依頼書を本部に請求の上申込むこと。

一、送り先

〒509-5134 岐阜県土岐市泉島田町一三〇

書道教育 大書心会

☎0572(55)0567(FAX 同0558)

一、審 査

平成二十年十月九日(木) 午前十時半から

一、審 査 員

会長、副会長、一科審査会員(本年度審査員を委嘱)

一、褒 賞

一科審査会員(三科について、各区分別に審査し、優秀作品に次の特別賞を授与するほか、出品者全員に賞状・賞品を授与する。

大賞・準大賞・会長賞※岐阜県知事賞※土岐市長賞※多治見市長賞※土岐市教育長賞※岐阜県教育委員会賞※名古屋

市教育委員会賞※土岐市議会議長賞※岐阜県教育文化財団理事長賞※中日新聞社賞・大書心会賞・理事長賞・師範会

賞・入選

(※は申請中)

一、作品鑑賞会・授賞式・搬出

平成二十年十月十三日(月・祝)

○作品鑑賞会 午後一時から

○授賞式 教育部 午後二時から 一般部 午後三時から

○搬出 午後四時から

※搬出不可能の方には、後日、返送料代引きにて送付する。

作品はすべて未発表のものに限る。

○一人何点出品してもよいが、入賞は一人一点とする。

○上位入賞者の昇段級については別に定める。

○級位の出品者には、一階級進級を認める。

一、その他

◆ペン字展審査会員名簿

▼硬筆部一科審査会員

(順不同)

○印は本年度審査員

井戸 章裕	梶田 清水	横井 溪芳
○新井 清泉	○飯沼 天光	○岡田 龍芳
○佐藤 碧山	大谷 清城	○大宮 春兆
○荻田 蒼仙	○奥田 三雲	○澤 静雨
○田口 智祥	○中村 竹童	○西脇 和芳
○牧野 恵宗	○水野 香竹	加藤 吟月
柴田 恵水	宮田 清翠	○尾郷 翠光
小崎 瑞穂	桜木 春苑	白川 美蓉
辻 知蛭	樋田 玲華	○築瀬 舟香
青山 碧雲	岡嶋 桂川	各務 紅泉
榊原 紅穂	堤 南苑	山村 光葉
國仙谷 光楓	伊藤 梅香	大迫 秀湖
平野 高鳳	内藤 光雅	落合 玉泉
田中 貴光	水野 碧友	大澤 美仙
下畑 華照	丹羽 彩霞	太田 智光
諸岡 清楓	水野 芳舟	清水 翠芳
玉樹 小華	酒井 智仔	神谷 芳雲
関 頼翔	野々田 香雨	加藤 紅翠
土本 扇玉	林 照香	須田 一葉
三宅 容玉		
▼硬筆部二科審査会員		
(五十音順)		
安藤 春翠	安藤 路草	井川 智英子
伊藤 英妍	伊藤 錦翔	伊藤 由光
伊藤 利光	井戸 千	飯沼 順光
池上 紅苑	石井 小邑	石垣 秀華
石橋 宏楓	井上 彩葉	今峰 美紅
岩永 清香	内山 茎彩	江戸 静泉
小木 曾花清	大崎 水愁	大須賀 桑龍
尾中 泊山	大坪 美紀	可知 佳葉
加藤 映月	加藤 佳月	加藤 紅水
加藤 祥子	加藤 天照	加藤 和楓
神田 瑞川	北嶋 令子	葛島 蘭香
倉家 吟千	栗木 琴聲	栗本 麗光

■ペン字展役員

(総指揮)

(相談役)

(審査委員長)

(実行委員長)

(副実行委員長)

(統括)

(実行委員長)

(副実行委員長)

ペン字展選抜名古屋展

桑原 栄雲	小泉 美水	小泉 墨修
児玉 知泉	小塚 澄湖	小森 公湖
近藤 松園	佐々木 小泉	佐藤 敦子
佐藤 香園	佐藤 芳蘭	酒井 桂月
酒井 麗月	澤 幸寿	澤田 春艸
澤田 天由	柴田 桃花	芝鼻 清華
清水 智泉	下條 春桑	庄村 紀香
杉浦 恵翠	鈴木 京楓	鈴木 靖光
鈴木 恵	瀬川 雅鳳	曾布川 子房
多賀 悦子	田中 さち子	田村 亨舟
高木 恵舟	高橋 里華	種倉 成華
坪内 翠秀	成瀬 伸芳	西出 光豊
西原 翠月	西脇 聖園	二宮 泰光
長谷川 慶子	長谷川 和華	服部 祐光
花村 翠仙	林 成香	日比野 美華
菱沼 光歩	平野 翠鳳	平林 輝仙
福井 青山	福岡 舟泉	福島 有光
藤下 湖山	船戸 翠峰	古川 京佳
古田 瑞苑	保母 頌泉	堀 光雪
堀 忠直	堀谷 幸苑	堀部 春溪
前嶋 玉華	松井 翠泉	松田 碧奈
松崎 蒼甫	丸山 晴香	村本 吟朋
矢野 千仙	山門 清扇	山門 緑城
山口 青苑	山崎 清花	山田 文子
山田 春月	山本 清流	和田 竹城
渡辺 恵舟		
奥村 暢之	梶田 清水	
井戸 章裕		
横井 溪芳		
新井 清泉		
田口 智祥		
澤 静雨	西脇 和芳	
飯沼 天光		
中村 竹童		
大宮 春兆	築瀬 舟香	
大迫 秀湖		

◆ペン字展昇格制度について

ペン字展では、次の入賞による昇格制度が設けられています。これは、皆さんのペン字展への出品意欲を高めることを目的としたものです。ここに詳細をご紹介します。多数のご出品を期待します。

▼昇格基準

◎二科審査会員、並びに無鑑査の昇格は、次のとおり得点制とする。

○二科審査会員は、大賞≧得点3、準大賞≧得点2、会長賞≧土岐市長賞≧得点1、大書心会賞≧得点0.5とし、累計6点で一科審査会員に推挙。(同時に無鑑査へ)

○無鑑査(教範)は、会長賞≧得点3、多治見市長賞・県教育委員会賞≧得点2、中日新聞社賞・大書心会賞≧得点1とし、累計5点で二科審査会員(同時に硬筆部師範)に推挙。

※三年連続してペン字展に不出品の場合、取得した点数は無効とする。

◎一科≧三科において上位入賞した次の人数は、一階級特進を認める。

一科≧1名 二科・三科≧3名

※三科は出品による特進もあるので、上位入賞の三人は、合わせて二階級特進となる。ただし、最高で「初段」を昇級の限度とする。

※規定・かな共書範の人が、一科で一席となれば、従来の検定試験によらず教範(同時に無鑑査)に推挙する。

※出品数の増減により、得点が与えられる人数及び昇段級する人数は増減する場合がある。

▼硬筆部師範の協力費について

硬筆部師範の方には、ペン字展の充実のため、また後進の範として全員の出品協力をお願いしておりますが、どうしても出品できない場合は、協力費を納めていただくことになっております。詳細は各自ご連絡いたしますのでよろしくお願い致します。

へんたいがな
変体仮名を学ぶ

締切り 九月二十五日（必着）



※高野切第三種・粘葉本和漢朗詠集などから集字しました。
※左下の活字は字母を示しています。

【お願い】 出品数が大幅に増加しました。事務処理の正確を期するため、**会員番号・成績もご記入**くださるようお願いいたします。

◎平安時代以来、一音についてたくさん
の仮名が使用されてきましたが、
明治三十三年（一九〇〇）、小学校令
により一字一音に整理、統一されま
した。この仮名を平仮名とよび、そ
れ以外の仮名を変体仮名とよび区別
しています。

◎仮名を習う場合、まず一字一字をしっ
かり習熟することが大切です。初心
の方はもちろん、ベテランの方も今
一度初心に返って仮名を学びましょ
う。

◎作品の出し方

上掲の図版で示した三行を書いて下
さい。

▼硬筆部 B5判（二五七mm×一八二
mm）程度の紙に書いて下さい。

※こどものひろば四行用紙も可。

※用具は自由（黒色に限る）

▼毛筆部 かな用半紙に臨書して下さい。
（拡大臨書可）

▼出品制限の対象とはしませんので、
どなたでも出品できますが、硬・毛
のどちらか一方に限ります。

▼支部名と氏名を必ず記入のこと。

▼優秀作品数点を、写真版として成績
表の後ろに掲載しますが、成績表で
の順位発表はしません。

一般部規定課題

締切り 9月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

○印等分に

青 春

失

策

壮

勝

立ちぎみに

リズムよく

安定よく

字形も大切だが、運ペンの呼吸のよい線をマスターしよう。

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

青春の失策は
壮年の勝利よりも
好ましいものだ

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕

太 陽 照 問 干 草 作

とめる

中心に

はらう

中心に

干	照	太
し	つ	陽
草	て	が
を	い	
作	る	
れ	間	
	に	

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

- ◆10月課題予告（楷書）
行を省みる者は
其の過ちを引かず
晏子春秋
- ▼教範・書範＝行草または草書
▼師範＝行書

★青春の：（書体＝行書）
ディズレーリ（一八〇四～一八八）
イギリスの政治家
壮年の勝利も、もちろん喜ばしいことですが、将来性のある若者の失策はもっと価値があるといっています。ディズレーリは青年の力を高く評価しており、失敗をバネに大きくはばきたいとれることに大きな期待を抱いているのです。

◆10月課題予告（行書）
一葉落ちて
天下の秋を知る
唐 庚

★太陽が：（書体＝楷書）
イギリスのことわざ
「鉄は熱いうちに打て」と同義です。
天候の変わりやすいイギリスでは、のんびりしたり油断すると、せっかく乾かしていた草を雨にぬらして、家畜のえさを台無しにしてしまいます。日本にも「好機逸すべからず」とか「思い立ったが吉日」などのことわざがありますが、「好機を逃すな」は世界共通です。

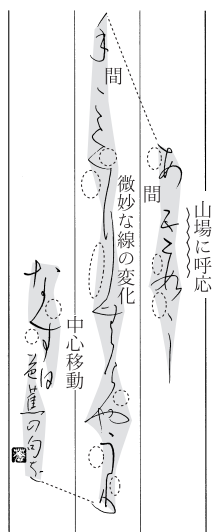
一般部かな課題

締切り 9月25日(必着)

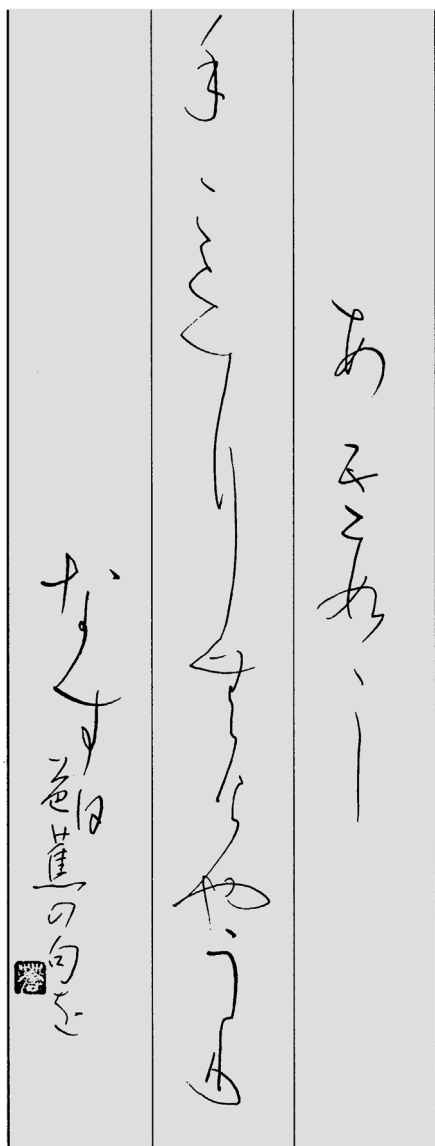
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



あき放、
秋涼し手毎にむけや瓜茄子
こと耳無介 う利なす日

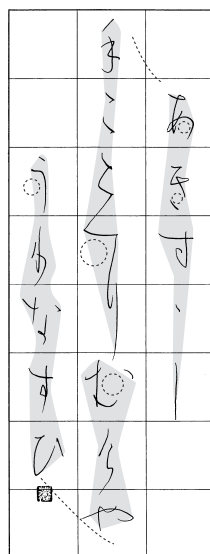


お 荻 田 蒼 仙 書

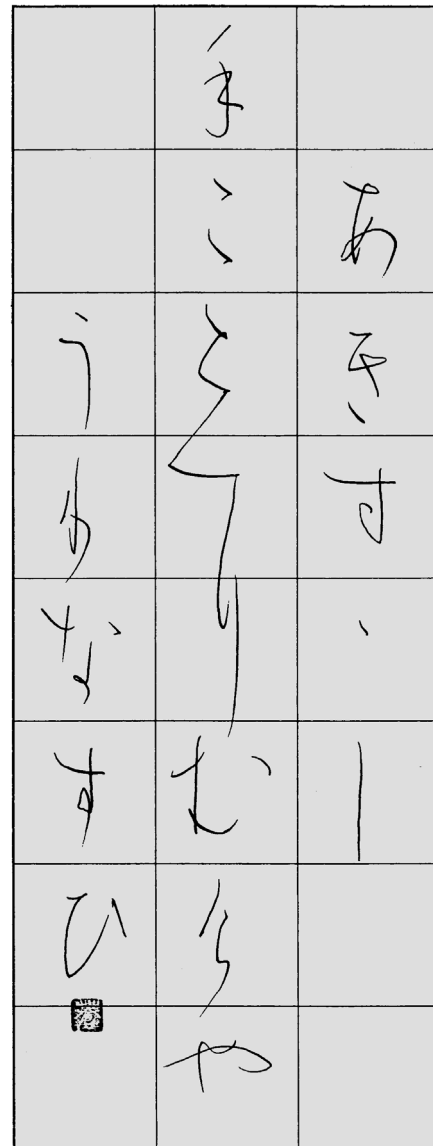
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



あき放、
秋涼し手毎にむけや瓜茄子
こと耳無介 う利なす日



お 荻 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

秋涼し手毎にむけや瓜茄子
うりなす日

(松尾芭蕉)

〔句意〕さわやかな風が吹いている。
さあこのおもてなしの瓜や茄子をみ
んなでむいていただきましょう、の
意。

〔級位ワン・ヒント〕

文字には固有の大きさがあります。
この句で小さく書くのは、こ、と、介
利です。外形的に分類すると■▲
■等になります。とかく大きさが揃い
がちになり、その結果平凡な作になる
のです。

す す じ じ

う う

あ い

〔段位ワン・ヒント〕

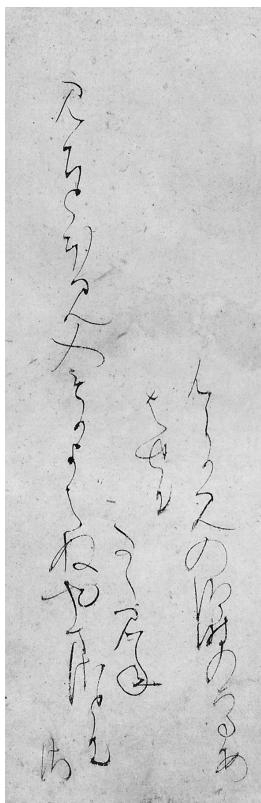
振幅を大きくゆったり……空間を多
くとり入れて明るく仕上げて下さい。
縦の線で仕切られています、隣の行
や書いてきた上の文字を見ながら書く
癖をつけましょう(行がガタガタなら
ないため)。二行目の下部での墨つきは、
上部をおおらかに見せるためと三行目
への移行、つながりをよくするためで
す。

◆10月課題予告

まつは たち あき あめ
松の葉の地に立ならぶ秋の雨

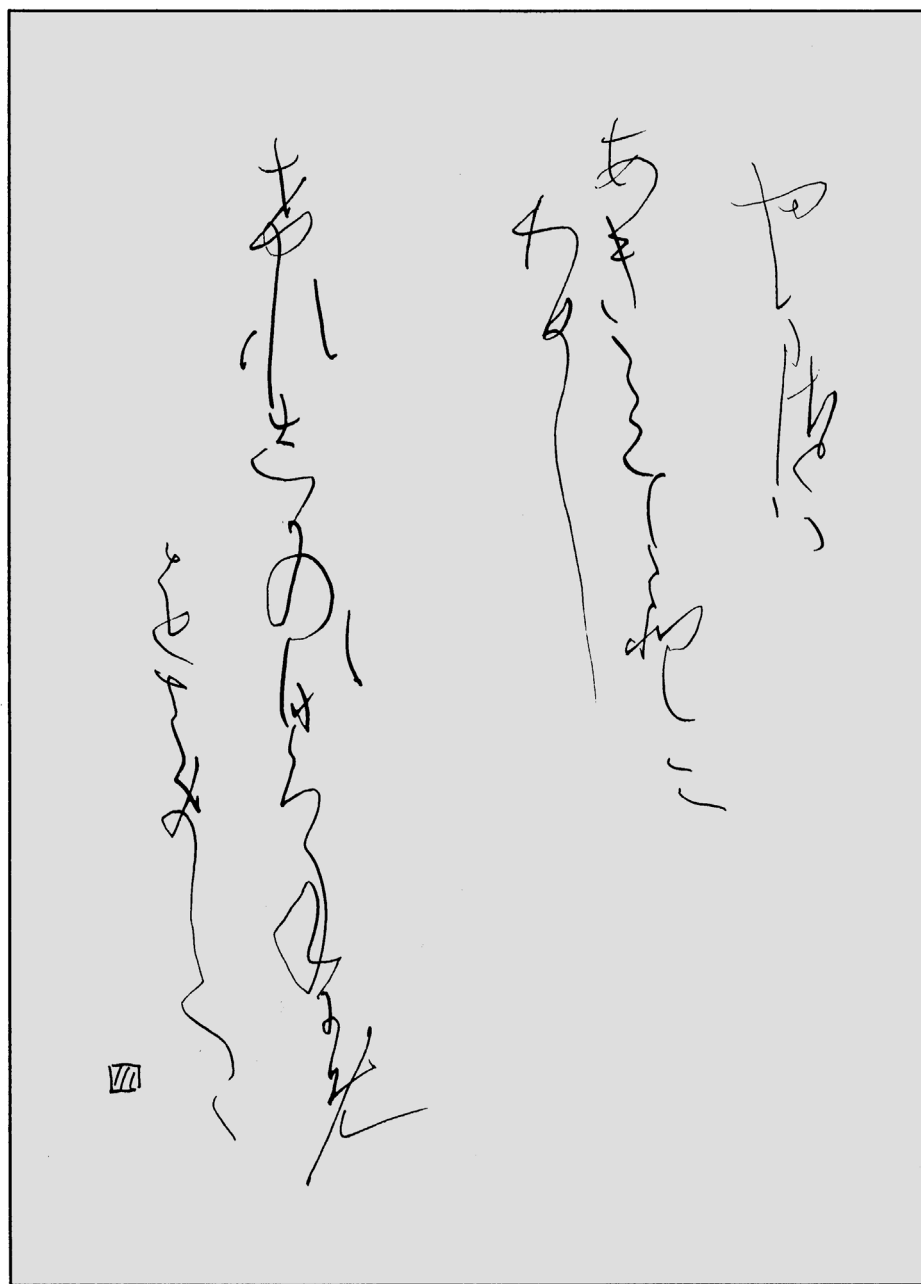
(丈草)

〔古筆参考〕



香紙切

み^見ちとほ^本み^見人もか^毛よ^可はぬ^者やま^多ざと^多に^見あ^年は^佐せ^尔に^多む^无ら^可か^見みの^多御^多時の^多う^多た^多あ^多



締切り 九月二十五日（必着）

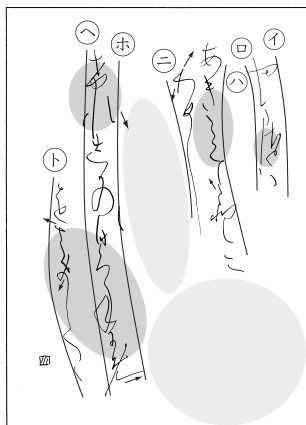
築やな
 瀬せ
 舟しゅう
 香こう
 書

や万佐と八
山里はあき
志那年爾
鹿の鳴く音に
秋こそことに
免登二
目をさましつゝ
わびしけれ
日希

忠岑

〔歌意〕山里というものは、秋は殊にわびしいものだ。夜になれば鹿が鳴いて、目を覚ませられることもしばしばで…。

〔出典〕古今和歌集（新潮日本古典集成）



●イとハ、イとホ、イとヘ、イとト、ロ
とホ、ロとヘ、ロとト、ニとホ、ニと
ヘ、ニとト、各々呼応。

● 大きな余白。(間)

●
↓
の方向大切。

密の連綿

密の部分を作る方法は既に何回も述べましたが、香紙切の中にもその方法がしっかり現われています。①線の間がつまる。②線に圧をかけて太くしたり墨が多く見えるようにする。③横線を多くする、等です。このようなテクニックを自分の作品の中で使ってみては如何でしょうか。

今回は上掲古筆から「や万佐と」を
使いました。

◆10月課題予告

わがやどは雪ふりしきて道もなし
ふみわけて訪ふ人しなれば

（古今和歌集）

締切り 9月25日(必着)

お母さんが着物をリフォームしてくれたワンピースを参観日に着ていたら、母親仲間でも好評でした。特に裁縫好きの葵さんが是非習いたいとのこと、近日中に一緒に行きますのでよろしくね。

お母さんが着物をリフォームしてくれたワンピースを参観日に着ていたら、母親仲間でも好評でした。特に裁縫好きの葵さんが是非習いたいとのこと、近日中に一緒に行きますのでよろしくね。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

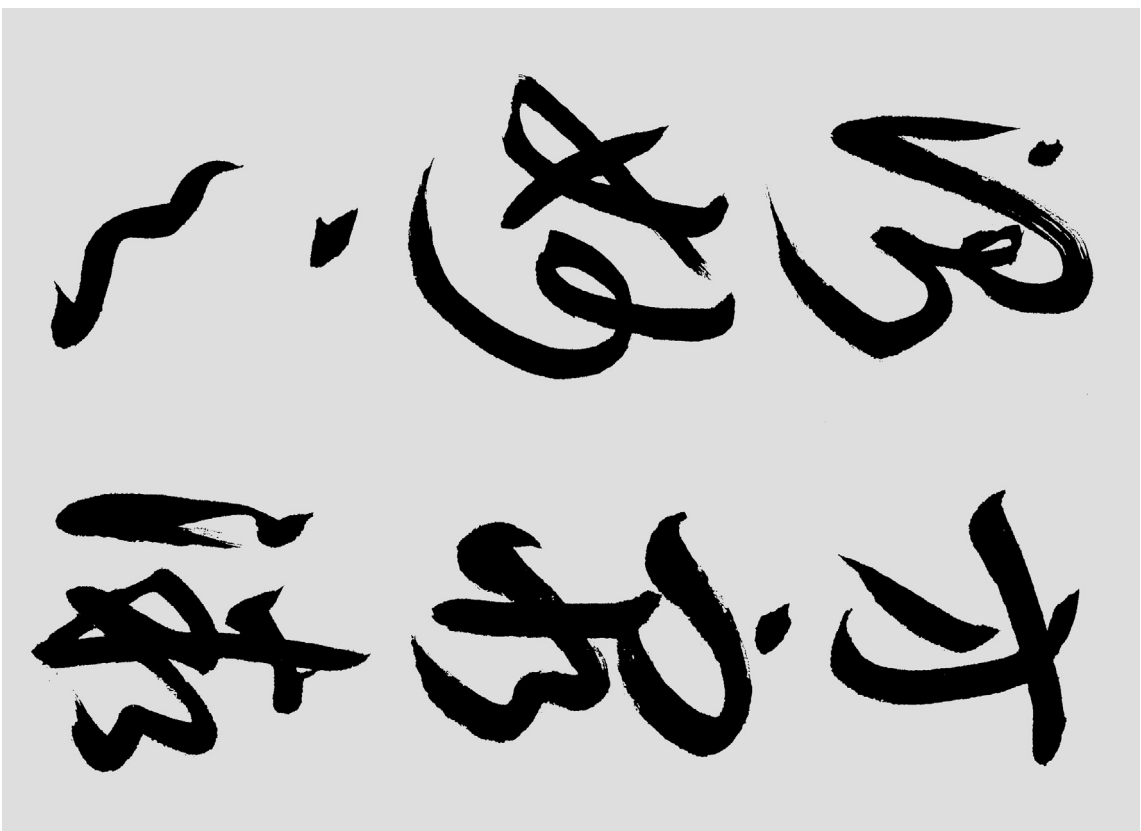
更級日記は、当時の子女が源氏物語に憧れていた姿を描いています。

東京都足立区 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

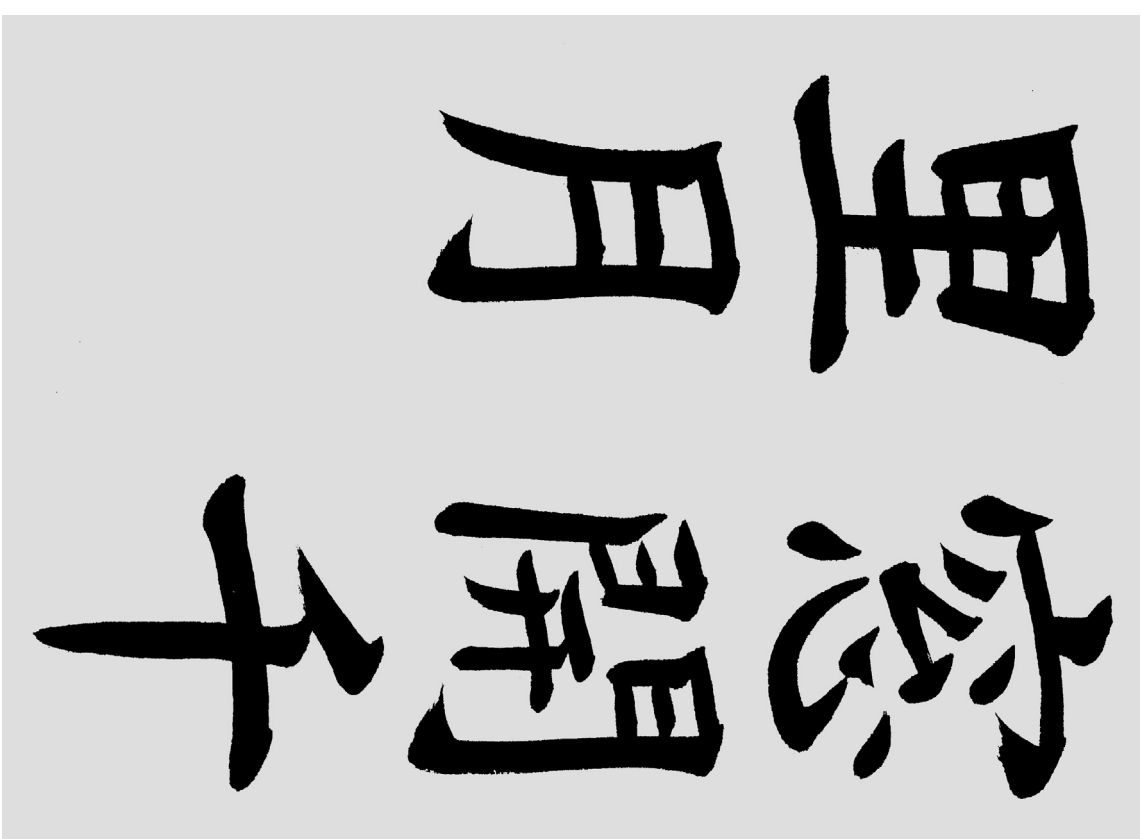
締切り 9月25日 (必着)



【出典】書譜（687）【筆者】孫過庭（649?～688?）
 【読み】（体勢の多）方を（翫^{もてあそ}び）、微を窮^{きわ}め妙を測^{はか}るの（夫^そは）、

準初段から師範まで

奥^{おく}村^{むら}暢^{のぶ}之^の臨^{ゆき}



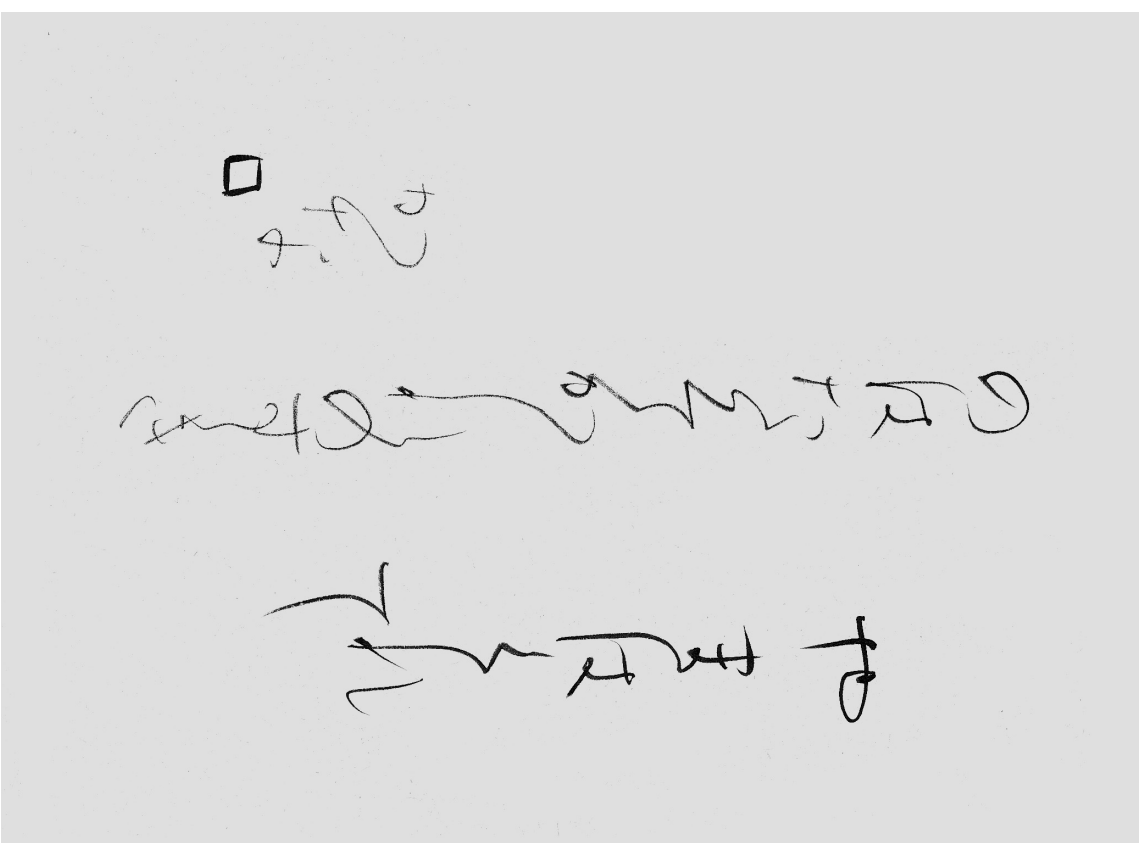
新入から1級まで（楷書）
 澤^{さわ}静^{せい}雨^う書

【読み】窓開く千里の月
 【大意】月の光は時々と明るくはるか遠くまで照らしている。

一般部毛筆かな課題

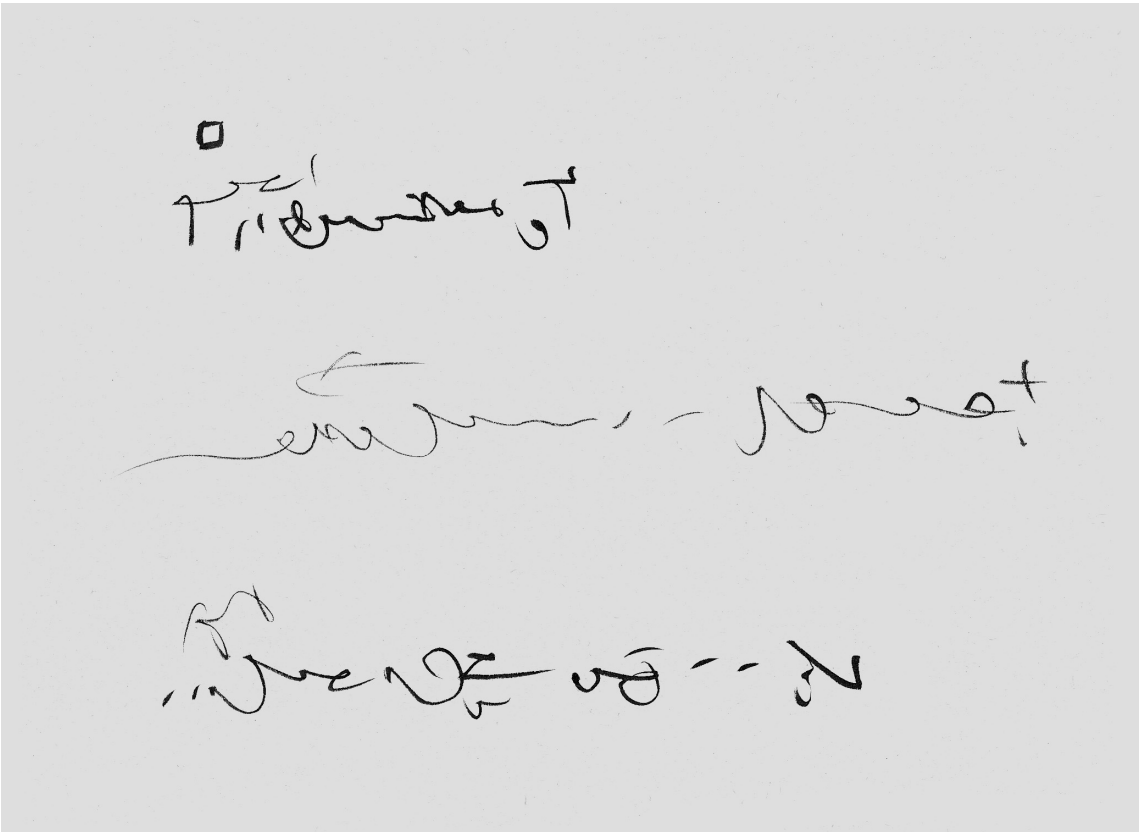
締切り 9月25日 (必着)

新入から1級まで



浅井 機山先生書
あらい きざん せんせい しょ

準初段から師範まで



山は暮る野は黄昏の薄哉
やまはくれ の の は こうこん の うすまがな

石越ゆる水のまろみを眺めながら、
こころかなしも秋の溪間に
このころかなしも秋の溪間に

〔出典〕 若山牧水

〔歌意〕 清流が石の上を越えて流れる水のまろみを眺めながら、愛しい

思いになる、この秋の溪間で。

〔出典〕 与謝蕪村

〔句意〕 山は早くも暮色が濃いが、眼前の野はまだほの明るく、薄の銀

色の穂がゆれている、の意。遠景と近景を「暮」と「黄昏」であらわしている。

一般部毛筆細字課題

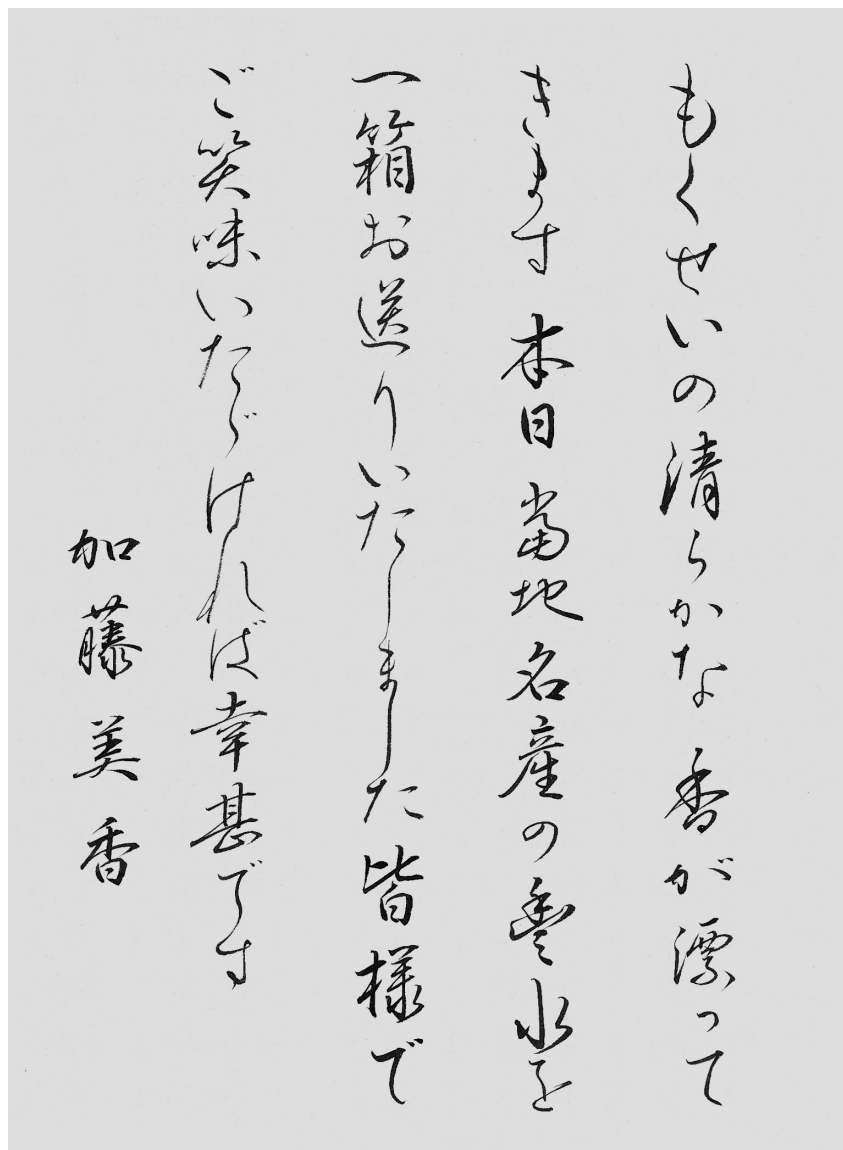
一般部毛筆条幅課題

締切り 九月二十五日（必着） 半切（一三六cm×三五cm）

新井清泉書



山入楼中成好句
月来窓下伴残書
〔大意〕 あい対する
青山は影を楼中へ送り、
て好句の材料となり、
人を窺う月は窓に入っ
てきて昼に見残した
本を読む友となる。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。



お宮 大 春 兆 書

半紙（334mm×240mm）

〔条幅解説〕 創作への展開！これまで、書道字典から文字を抜粋してきましたが、活用いただけただけでしょうか。条幅は自分自身の表現の場です。お手本や様々な古典のよいところを吸収し栄養として自己表現へとつなげていかなければなりません。手本頼りだけでは、いつまでたっても手本なしでは何も書けないことになりかねません。字典から字を拾う作業は大変ですが、たとえ一字二字からでも調べて、自分なりの作品が出来るよう工夫しましょう。遠いよう为上達への近道となるのがこの地道な努力からなのです。

もくせいの清らかな香が漂ってきます
一箱お送りいたしました皆様で
ご笑味いただければ幸甚です
（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

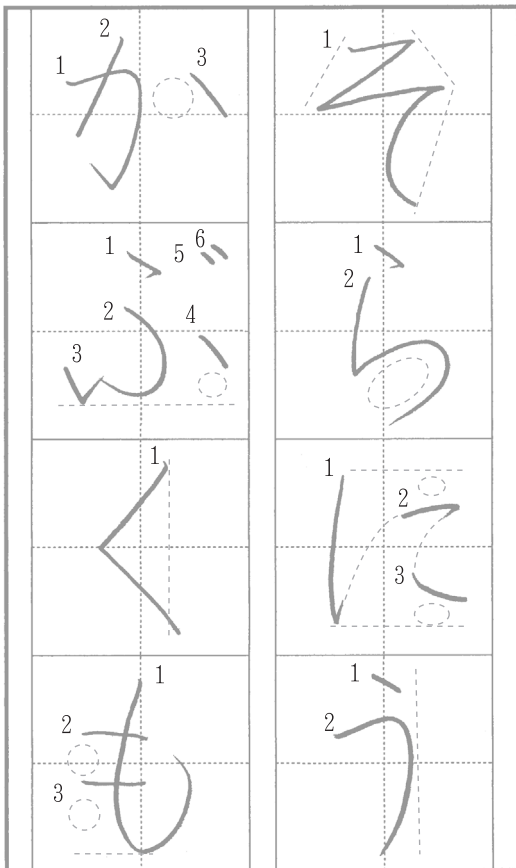
〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績（天位〜5等）は、評価により毎月変わります。

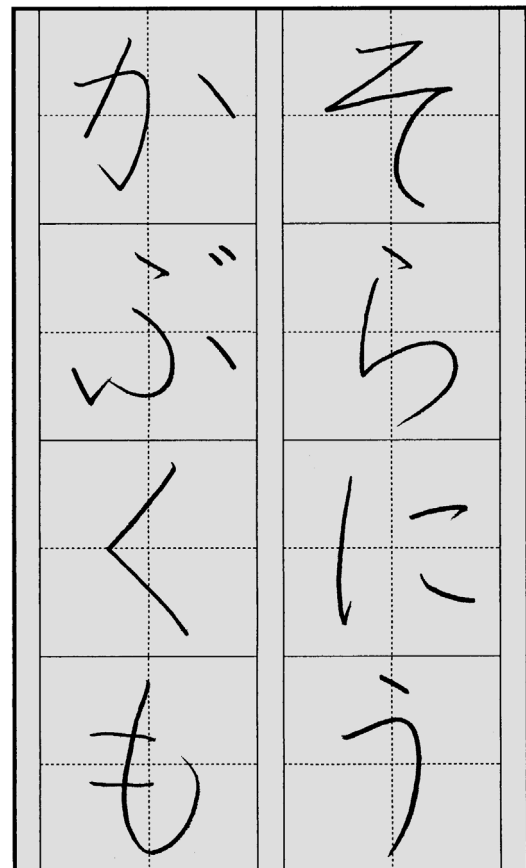
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



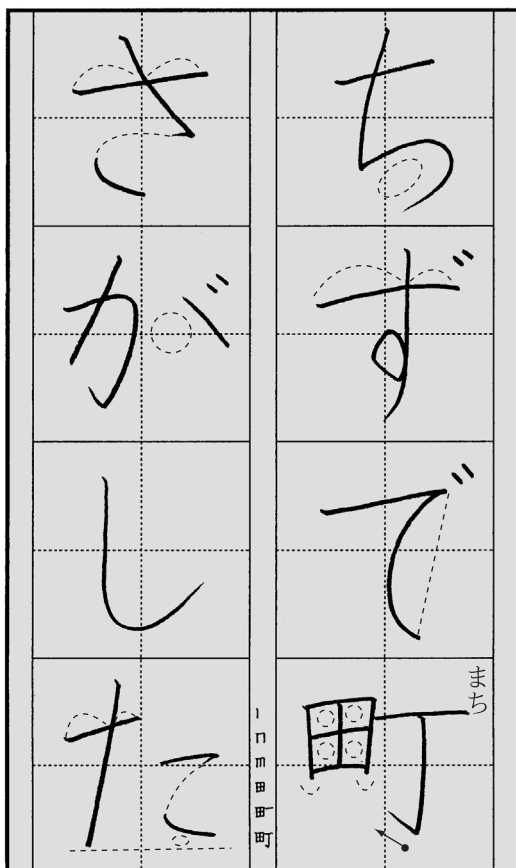
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



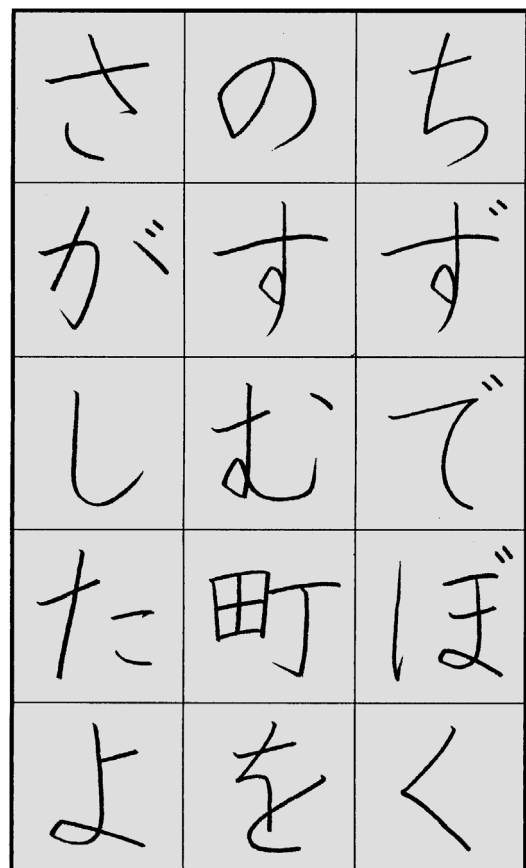
よ
う
年

小三年まで
三宅容玉書



新入1級

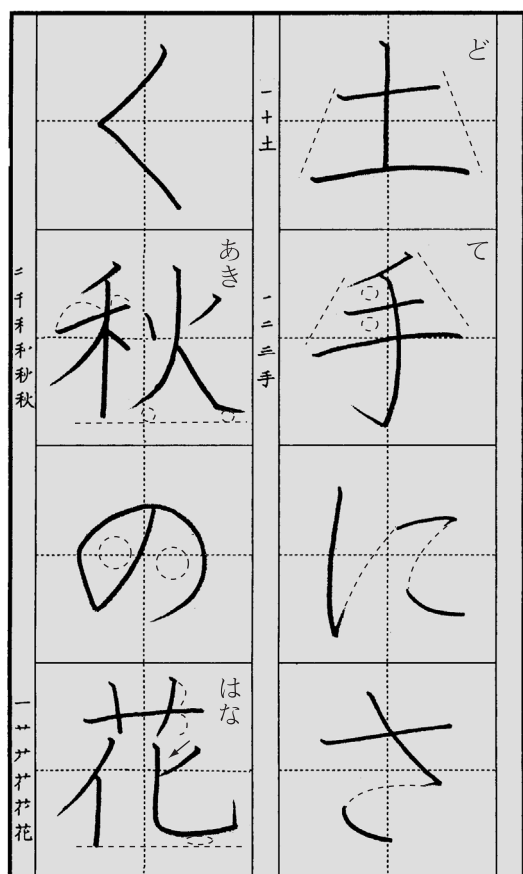
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



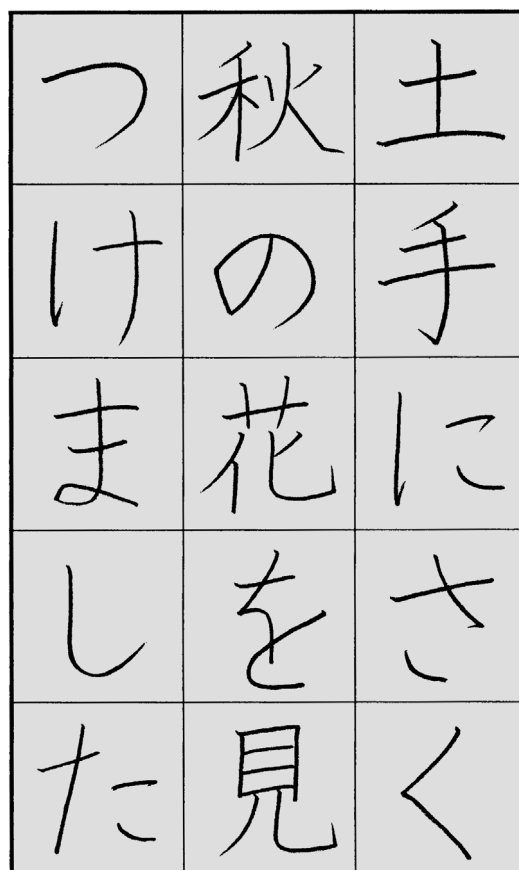
小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

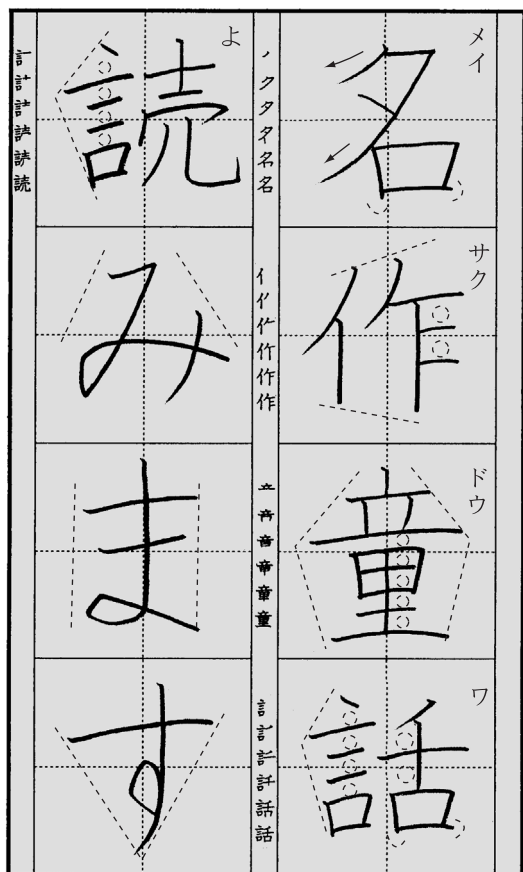


新入〜1級



小 二 年

準初段以上



新入〜1級

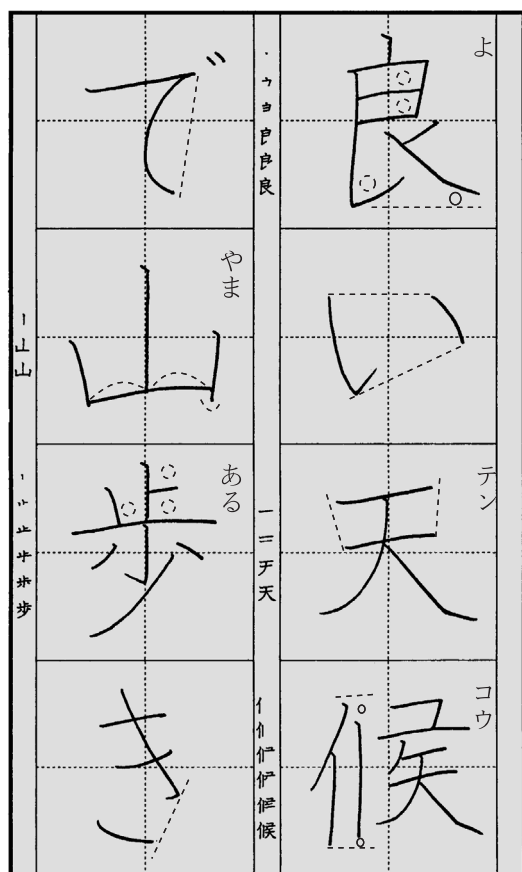
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



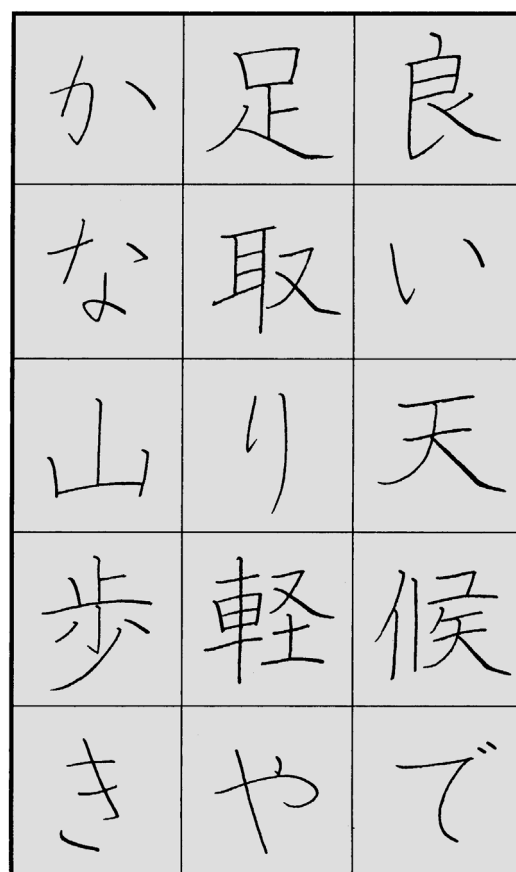
小 三 年

準初段以上

〈用具〉自由(黒色に限る)

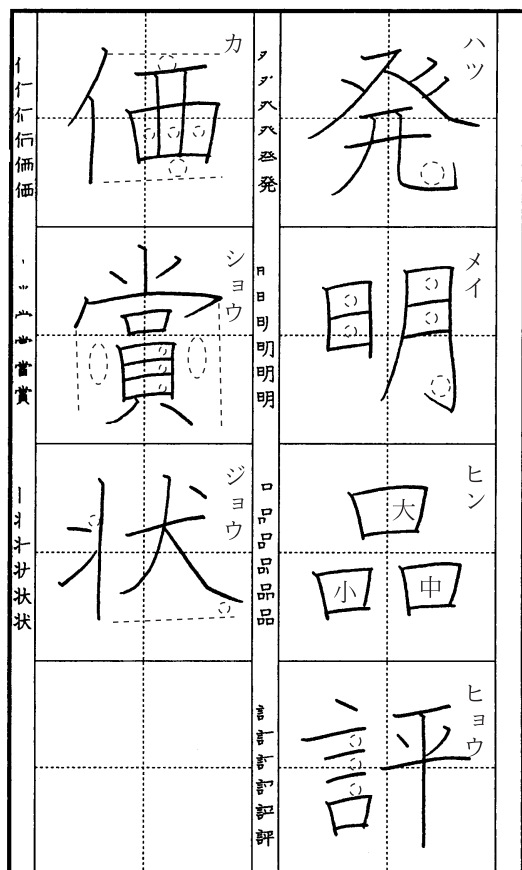


新入1級



小四年

準初段以上



解説(よく見て習いましょう)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



小五年

(全員)

小四以上 尾郷翠光書

へようぐ 自由(黒色に限る)

ノ ハ ム 会 会	会 カイ	料 リョウ
ハ ハ 簡 簡 簡	簡 カン	理 リ
、 、 単 単 単	単 タン	講 コウ
、 、 教 教 教	教 オソ(わる)	習 シユウ

解説(よく見て習いましょう)

小六年

シ	で	料
ピ	簡	理
教	単	講
わ	な	習
る	し	会

(全員)

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。

が	制	三
完	作	年
成	で	の
し	壁	共
た	画	同

中二・三年 (行書)

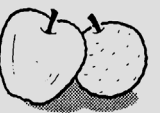
子	祖	敬
を	父	老
贈	母	の
つ	へ	目
た	帽	に

中一年 (行書)

▼小三年以下の課題 ひら ばやし き せん 書

出 ^で	見 ^み	秋 ^{あき}	お	家 ^か
か	つ	の	い	族 ^{ぞく}
け	け	味 ^み	し	み
ま	る	か	い	ん
す	旅 ^{たび}	く		な
	に	を		で






◎お手本はえんぴつ使用

- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
 - 一、四行用紙に書く場合は、文章を収まりよく短くして下さい。
 - 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
 - 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
 - 一、成績は評価により毎月変わります。
 - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

◎お手本はつけペン使用



しめきり 9月25日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 もろ おか せい ふう 書

花 ^{はな}	元 ^{げん}	大 ^{だい}	お	敬 ^{けい}
束 ^{たば}	気 ^き	好 ^す	世 ^せ	老 ^{ろう}
を	で	き	話 ^わ	の
贈 ^{おく}	い	な	に	日 ^ひ
っ	て	祖 ^そ	な	に
た	ね	父 ^ふ	っ	
	と	母 ^ぼ	て	
		に	る	





小二
上手

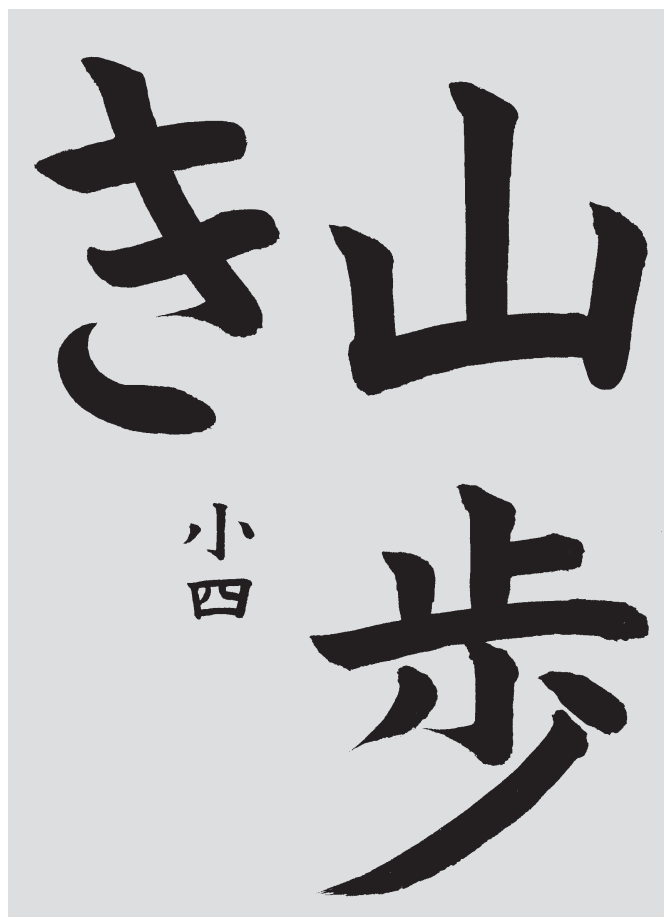
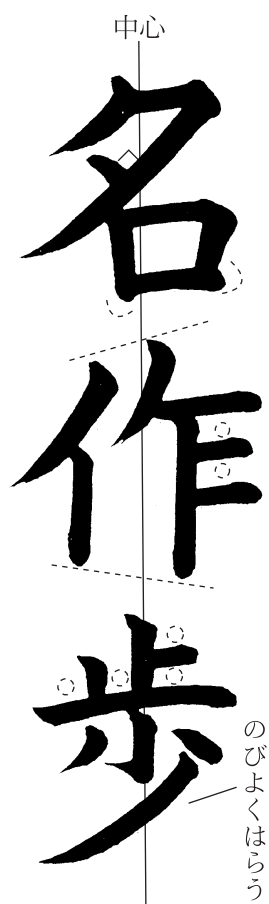
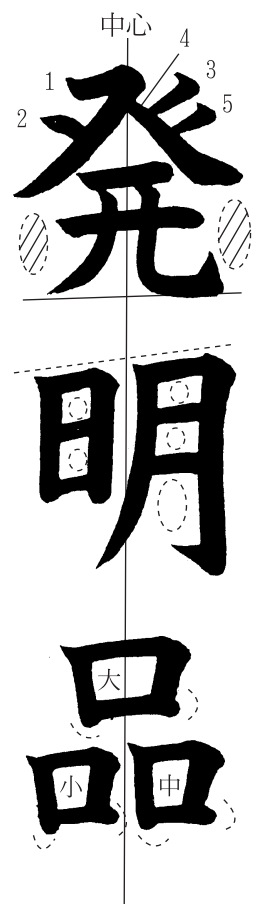
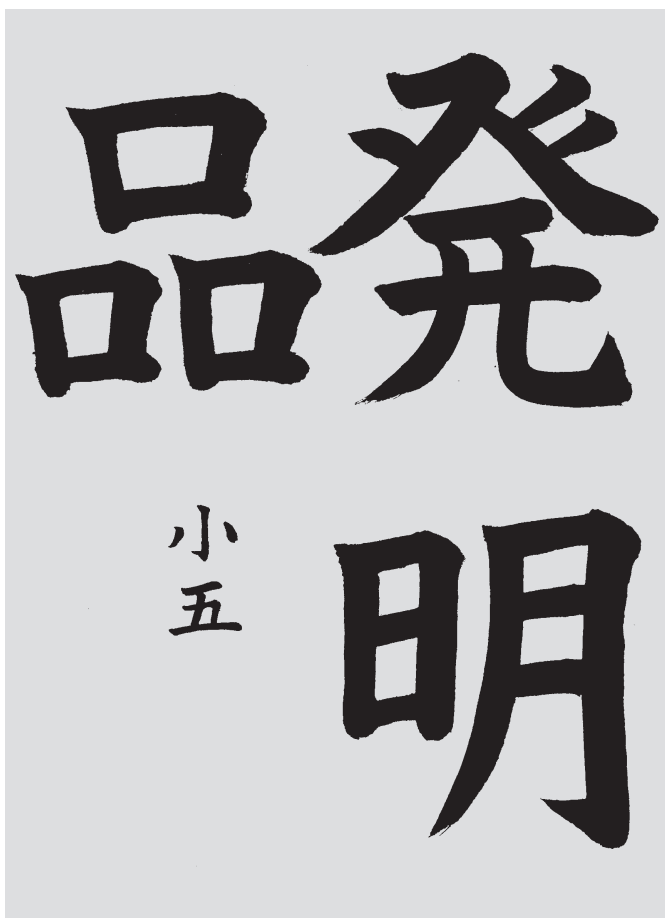
幼年／小二年

玉樹小華書

さい
ら

そりに注意
土
まろく
ら
長めに
手
ず

小二
ち
ず



小三、小五年
水野の香竹書

中三
共同制作

小六・中二・三年

奥村暢之書

講習会
小六

老制作
講習会
敬
ごんべん右上がりに
作 続く気持ちで

中一
敬老の日